



# ぬくもり

2011

10月号

No. 47

[平成23年10月15日発行]

輝く人とまち 人 つながる可児 —「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

ゆり はな  
百合の花のように  
清らかに純真な心で  
未来を見つめて!



百合の花ことば=「壮大な美」の景色

(蝶と遊ぶ少年)

いと愛 おしむ心



ゆり  
百合の花ことば=「無垢」

「真実の愛とは、条件をつけたり期待することなく  
ただいつくしみながら愛(奉仕)することです。」  
(ノーベル平和賞受賞者 マザー テレサ)

〈人権文化の光彩〉

(体験談でなく小説です)

平成22年度「300字小説」(最優秀賞) 長谷川 千穂 (当時:中学3年生)

そよ風

凜の両親は中国人だ。今日も凜の家の庭に大量のごみがなげ込まれていた。黙って片付ける母を見ながら、凜は、日本人なんか一生許せないだろうと思った。

そして高校の入学式。凜が誰とも話さずに帰ろうとした時、一人の女の子が凜に話しかけた。日本人なんてもうこりごりだと思っていた凜は

- 無視をした。二ヶ月たっても彼女は凜に話しかけ続けた。凜は不思議に思って彼女に聞いた。
- 「なんで私なんか話しかけるの?私、中国人だよ?」
- 「『凜』っていう子と仲良くなりたい。国なんか関係ないよ。平等に楽しんでいいんだから。」
- その時、初めて日本人を少し好きになった。

## 目次

- 講演会(12/4)参加者募集中! 水谷修氏(夜回り先生) ..... ②
- 平成23年度前期活動のあらまし ..... ②
- 特集コーナー「子どものいじめについて②」~子どもの人権を守ろう~ ..... ③
- コーナー ..... ④
  - ある日その時
  - 可児ぬくもりネットだより
  - ぬくもりまゆちゃん⑦
  - 他



あの方がやってくる!

発行

可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室内)  
〒509-0203 可児市下恵土5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990

ホームページ

可児ぬくもりネット

検索

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

# 水谷修氏「ぬくもり講演会」

**参加者募集**

(往復ハガキにて下記の通りお申込み下さい)

(本センター：設立20周年記念企画)

**募集中!**

〈入場料：無料〉  
(~11/10まで)  
1通で2名まで記入可  
(抽選有)

車いすO.K

手話通訳有

託児なし

- ・日時  
12月4日(日)  
12:30(開場)  
13:30(開演)
- ・一般募集  
400名(抽選)
- ・申込み  
~11月10日(木)  
消印有効

郵便はがき

5090203

往信

可児市人権啓発センター行 (左)

可児市下恵土5166の1  
可児市総合会館分室内 (右)

※何も記入しない (右)

郵便はがき

返信

電話番号 (代表のみ)

参加者氏名  
①氏名  
自分(代表)の名前  
②氏名  
ある場合のみ

※車椅子の希望のある方は明記してください。

※当日この葉書持参 (左)

※自分(代表)の氏名 (右)

※住所 (右)

当日会場「ホワイエ」にて  
「人権総合展」同時開催します。

共催：本センター、市役所各人権担当課(4課)  
人権擁護委員会可児部会

先着約300名様にアンケートの上、  
「ぬくもり卓上カレンダー(H24年度版)」を差し上げます。



## 平成23年度前期活動のあらまし

主な実績(4~9月)

本センター認定

6/26 「ぬくもりグループ」企画 (可児ここプロジェクト)



「一品持ち寄り弁当」の集い(前座企画)  
アール主劇場(ホワイエ)にて

家庭人権教育

ひろがれ「弁当の日」  
シンポジウムIN可児

- ・(市)文化創造センター(主劇場)
- ・講師：佐藤剛史氏(他2名)

親子の絆と感謝の心から  
共に成長を!!

New

参加者600名

4/1~ 「可児市人権啓発だより」創刊

(創刊日)

(A4サイズ2面タイプ/年3回位)



- ・既発行の「機関紙 ぬくもり」の間隙をみて適宜発行します。
- ・簡潔でタイムリーな記事をめざします。

6/1~ 人権本巡回制度スタート ぬくもりブックス・フロア



(人権本の選考のようす)

本センター蔵書を学校へ1ヶ月  
ずつ巡回する制度。

- ・本年は全小学校2コース(11校)  
(児童・先生用：各約25~30冊)  
(6~8月実績読者数：464名)(4校)

(市)図書館の協力を頂いています。

6/10 本センター 視察研修会



「感あれば必ず応あり」  
(藤樹記念館にて)

役員・推進員 参加者15名

滋賀県 中江藤樹記念館

- ・講師：中江彰(館長)
- ・館内視察
- ・藤樹書院視察

・学問とは徳を磨く道具なり  
・父母の恩徳は天よりもたかく海よりもふかし

**親と先生の対応**

**主張**

**いじめはいつ起るかわかりません。家庭、学校、地域(社会)の連帯責任であります。**

**親は「最終責任者」であり、学校は「育みの責任者」であり、地域(社会)は「教育環境責任者」であります。**

各々の責務の均衡が崩れた時にいじめは起こり易いと言われます。とはいえ、いじめは、様々な原因により起こりますので、様々な対応と継続が必要になります。いじめは、起こすものの感情(命)の問題であるからです。いじめの命は、人間だれでも持っています。その命を出し難くするには、善の心のオブラートで何重にも包み込み心の奥にしまうことしかありません。そのために親・学校・地域があり、それぞれが常に上向きの善の対応を永続していくしかないのです。では、その対応を考えてみたいと思います。(編者)

(法務省人権局編いじめQ&Aより)



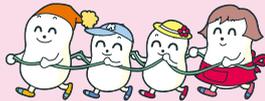
**対応1 家庭と親のありよう**

**①子どもの育て方に気を配る**

- ・家庭こそ、子どもの成長と人格形成を図る源です。親から誉められたり、叱られたりすることで道徳心を学び、兄弟喧嘩で他者との利害の調整の必要性を学ぶのです。
- ・親自身が威圧また放任という極端な態度だと「いじめ」に走り易くなります。
- ・「過保護」「過干渉」過ぎますと自立心不足となり依存性が強くなります。自己主張し「わがまま」となって逆にいじめの対象に成り易くなります。

**②子どもと語り合う時間を作る**

- ・子どもとの対話は「いじめ」の予兆を発見でき防止の重要な手段です。
- ・対話が不足しますと予兆の見逃しと取り組みを難しくします。
- ・親は、やさしく問いながら「学校での出来事・先生や友達のこと」を聞いてあげてください。こうして欲求不満を解消してあげてください。



**対応2 学校と先生のありよう**

**①「いじめを許さない」という雰囲気醸成する**

常時の機会宣言していく(学期始業式・朝礼等)

**②子どもとのコミュニケーションを更に気軽にする。**

特にいつもと違う言動の子には声掛けをする。

**先生の言動の大切さを記載します**

(平成22年本センター300字小説入賞作品)

中学校一年、僕はいじめにあっていた。男子には暴力をふるわれ悪口を言われ、女子にはいつも無視された。ある日、進路希望の紙が配られた。どうせ僕はろくな大人にならないだろうと思い、くしゃくしゃにして引き出しに入れた。

中学二年生になった。また今年もいじめられると思い、ゆううつだった。だが僕へのいじめを見た担任の行動に驚いた。「やめないか。お前達。」

とどなり、それがキツカケでいじめはなくなった。いじめは誰かが助け、なくすことができると学んだ。僕も誰かを助けたいと思った。急いで家に帰り、一年のころのくしゃくしゃの進路希望の紙を開けて「先生」と書いた。

酒向里奈(中学校二年生:当時)  
※本作品は小説です。

**まとめ**

- ①「学校での人権の教育環境は、先生自身といえます」
- ②子どもには「常に自分を知っていてくれる」という安心感と共に他人の痛みを分かち合える育みが必要です。
- ③「学校でいけないことは、社会でもいけないこと」。いじめは、人権侵害で犯罪であることを、親や先生は、低学年から子どもたちに言うべきことです。
- ④いじめをやると心は、奈落の底にひきずり込まれ易いのです。だからさらに悪知恵がでてエスカレートするので、そして悪さが心に加算されていきます。このため身近にいる親や先生がどんなことがあっても起こさせないようにしてあげることが大切なことです。

**人権講話活動実施(派遣講師:本センター役職員) — 4~8月実績**

4/13



**家庭教育学級リーダー研修会**  
(生涯学習課主催) 参加者75名

・テーマ:「子育てのありよう」  
(◎幼稚園から中学校までの家庭の皆様が集まり等にて)

5/24



**(市)人権同和推進協議会**  
(教育委員会主催) 参加者20名

・テーマ:  
「人権教育を推進するにあたり  
平等と公平そして公正のあり方」  
(◎各学校には、首記の会の先生がおり、「子どもの人権教育」の研修をしています。)

8/8



**学校人権研修会**  
(各小中学校主催) 参加者31名

・テーマ:「人権感覚を高めるには」  
他討議  
(◎毎年各小中学校教職員の夏期研修等にて)

**7/12  
9/20 標語・300字小説募集**

結果・応募者総数:1,735人  
(応募者内訳)  
●標語:1,565人  
300字小説:170人  
(小学校:1,139人  
中・高・一般:596人)

(最多応募校)  
●中部中学校 ●今渡南小学校

(入賞作品選考)  
●第1次~第3次選考 — ~10月中旬  
●入賞者発表 — 11月初旬

